

思いやりの連鎖

宮古市立第一中学校 一年 佐藤 旭

今年の三月、私は国境なき子供たちの活動でフイリピンに行ってきました。台風の被害を大きくうけたサマール島という場所です。そこの子供達と災害についてのワークショップをするのが目的でした。

私の家や家族は、東日本大震災の時には直接的な被害を受けなくてすみましたが、まだ小さかったのでもっとわくってわくって不安

になったのを覚えています。

そのうち、いろんな人が私のことを心配してくれたのをききました。誰かが自分を心配してさかしてくれていると思うとなんだかとても安心した気持ちになりました。

私は、サマール島の子供達を助けられるほどの力もお金もないけれど、せめて仲良く遊んで明るい気持ちをとりもどしてほしいなと思いました。そこで、おり紙やけん玉などのおもちゃを沢山持ってでかけました。精神的

な部分で、助けてあげられると思っていました。そして、私も気にかけているよというこ
とを伝えようと思いましたが、だれかが自分達
のことを心配していると安心した気持ちにな
ると思っただけです。

なのに、自分からたくさん声をかけようと思
っていたのに、緊張のあまりうまく話しか
けられませんでした。その時、相手からたく
さん話しかけてくれました。おかげで緊張も
ほどけて仲良くなることが出来、とても楽し

かったです。

その後、日本に帰ってきてから、私は気づ
きました。助けられてばかりで、結局助けに
なっていないことに。私はがっかりしてしま
いました。

どうしたら、私も助けることができるのだろ
う？

助け合うとは、どういうことだろうか？

助けてもらっただおかえしに、何ができるのだ
ろう？

フォリピンに何回も行くこともできないし、
 あの子達にどうしたらおかえしできるだろう。
 以前は「助け合い」とは、誰かに助けても
 らったら、次には自分がその人の助けになる
 ことだと思っ ていました。でも、このフォリ
 ピンの子供達との交流を通して、私の考えは
 ちよつと変わりました。

今は、誰かに助けてもらったら、自分も誰
 かを助けることだと思っ ています。助けてく
 れた本人にかえさなくても、他の誰かにかえ

せばいい事に気づきました。

そして、最初の行動をおこした人物にたと
 えそれが届かなくても、次々誰かを助けてい
 くことで助け合いの輪が広がっ ていけば、世
 界中でおたがいを助け合うことができるとも
 しれません。

しかし、逆の場合もいえます。一人が誰か
 が悲しむような行動をとって、それによつて
 次々と他人を傷つけたりする行動がつづいて
 いけば、あつ という間に世界は争いや悲しみ

でいっぱいになるかもしれません。

私は、フィリピンで、子供達を元気づけるどころか、子供達に元気づけられました。たぐさんの笑顔と元気とパワーをもらいました。私も他の人達に、笑顔や元気やパワーを与えることのできる人間でいたいと思います。私がか、沢山の笑顔や元気を周りの人に与えていけばまわりまわっていつかあの子達にまでも笑顔や元気が届くかもしれません。

ク

私は、テレビであの地方がまた台風にみま

8

われるときくと、やはり気がきではありません。ケレンのおうちは今度はふきとばされな
いだろうか。せこかく道路をふさいでいた木
やゴミが取り除かれたのに、また道がふさが
ってしまわないだろうか？と次々心配してし
まいます。私が、こんなに心配している事が
伝われば、あの子たちの力になるのと思ひ
ます。

助けてもらったから助けるだけでなく、自
分が、最初の行動をおこした人になって、た

くさんの方向にたくさん輪を広げていきたい
です。

私の考える助け合いは、自分の出来る事を
周りの人に対してしていくことです。それは、
助け合いではなく一方向的な親切のように見
えるけれど、親切の連鎖は世界中でつながっ
て大きな助け合いの輪ができると思うみらで
す。

笑顔をかけただけで、人を元気にできます。
ちよっ と元気をもらった人は、信号で重い荷

物を持ったたおばあさんを助けてくれるかもし
れません。うれしかったおばあさんは、使わ
なかつた夕クシー代を、森林保護の団体に寄
付するかもしれませぬ。そのお金は、ファイリ
ピンで使われ、ケレソの家のそばの防風林に
なつて、台風の時ケレソの家を守つてくれる
かも知れませぬ。こんなふうに考えていくと
世界が助け合いでいっぱいになつていくこと
も可能だと思ふのです。
それを、可能にしていきたいです。